

学校だより

令和5年度 第13号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和6年3月22日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

令和5年度を含めて 5年間 ありがとうございました

校長 藤田 忠久

3月1日(金)「6年生ありがとうの会」は、5年生の企画・運営によって1～5年生が順に学年(集団)としての「感謝」と「決意」を表していきました。その中の「引継ぎ式」では、6年生が大切にしたい「ふるさと大好き」「心のこもった挨拶」「さしすせ掃除」「仲間とともに創り上げる合唱」「なかよし遊び」の五つを5年生代表に手渡し、受け取った5年生が「私たちが引き継ぎます」と力強く宣誓しました。14日(木)の『なかよし(班)ありがとうの会』では、今年度の縦割り班を解散するとともに、6年生に在校生一人一人からの「感謝」と「決意」が伝えられました。最後に6年生からの呼びかけにより、全校で「校歌」を歌いました。全校児童が廊下に出て広がり、6年生は在校生に「託す思い」を含め、在校生は6年生と力を合わせて行う最後の活動という気概をもって、心のこもった「校歌」をみんなで歌うことができました。

実は、昨日(3/21)4時間目に「卒業生への校長講話」として、キャリア教育の側面から「教職の魅力」を話した後、「これからの社会を生き抜く力」についての話をしました。子供達が成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい“挑戦の時代”を迎えていると予想されます。そのため、子供達には「社会の急激な変化を乗り越え、未来を切り開いていく力」、言い換えれば「自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくための資質や能力」が求められることとなります。AIの時代を生き抜くために必要なこうした力を、自分なりの解釈として「あ・い・う・え・お」で始まるキーワードを使って、以下のように捉えています。

- あ ん (案) … 新しいアイデア を生み出す発想力や構想力
- イ ン (in) … input (入力) 必要な知識や情報入手・収集する思考・判断の力
- う ん (運) … 運を開く output (出力) 情報発信に必要な未来を切り拓く表現力
- え ん (縁) … 縁を大事にする 人的ネットワークを構築するためのコミュニケーション力
- お ん (恩) … 恩義に感じる(感謝の心を忘れない) 誠実さ等の人間性

「岐阜小学校には“素直な子”がとても多いと感じています。この“素直さ”は、うまく育てていかなければなりません。単なる従順な子にしてしまっただけでは、上記のような力は十分に育ちません。いろいろなことを学んで“素直に”吸収しながらも、適切な選択・判断ができる思考力を育てていくことが重要です。そして、誰も思いつかないようなアイデアを出したり、進んで自己アピールしたりすることができる雰囲気や環境が必要です。そこには、私たち大人の評価観が大きく影響します。枠に詰めたり、ルールに乗せたりすると、育児や指導はしやすくなるかもしれませんが、しかし、大人の考える範囲内でしか動けない子になってしまいます。子供達の思いつきや思わぬ行動が、大きな価値に繋がる可能性があることを、忘れないようにしたいものです。子供達の可能性を引き出し、それを伸ばす指導を目指していきたく思います。」この文章は、令和2年度「学校だより」最終号に載せたものですが、今も気持ちは変わっていません。だからこそ「画一的な宿題」から脱却して「家庭学習」への転換も図ってきました。子供達に「選択・判断」の機会を与え、それに向かって行動することができるよう、支えたり見守ったりしながら育てていってください。

最後になりましたが、令和5年度を含め、5年間という長きに渡って「藤田の学校経営」に、ご理解とご協力を賜り、本当にありがとうございました。新しい体制で迎える4月からの新年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

学校だより

令和5年度 第12号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和6年2月29日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

締め括りや引継の取組も佳境に！

校長 藤田 忠久

12月の5年生に続き、一昨日(2/27)の授業参観では、1, 2年生の生活科、3, 4, 6年生の「ふるさと学習」(総合的な学習の時間)の「学習(成果)発表会」という形で、子供たちが個人やグループで発表する様子を、ご覧いただけたことと思います。お子さんの頑張りを大いに認めて誉めてやって欲しいと思いますし感想やご意見も聞かせていただけると嬉しいです。



岐阜小学校の「発表・発信・提案」といったアウトプットの活動は、6年間を通して積み上げていきます。例えば1年生は、2月だけでも「『新入生との交流』での学校生活紹介」、「児童(発表)集会と授業参観での『できるようになったよ』発表」、「『6年生ありがとうの会』での掃除支援への感謝を伝える練習」と、一人一人が自分の言葉や動きで発表する機会がありました。こうした取組を、どの学年でも積み重ねていくことで「思考・判断・表現」の力が高まり、自信や誇りに繋がっていくものと考えます。タブレット端末を活用したプレゼン能力も、学年が上がっていくほど、高まっていくことを実感しています。



さて、令和5年度も、残すところ3月だけとなりました。年間のまとめと新年度準備の「3月の学校生活」は大変重要で、その1日1日、1分1秒を、本当に「大切にしていかなければならない」と痛感しています。既に1~2月にかけて6年生が他学年と交流する「チャレンジ・スポーツ」が終わり、異学年縦割り活動としての「なかよし遊び」や児童会(委員会)活動では、それぞれ引継ぎも行われつつあります。その他「一つ下の学年に授業を見せよう⇔一つ上の学年の授業を見よう」(自分たちで学び方を振り返り、成果を自分のものにできるようにする)プロジェクトとして、上学年が自分たちの学びの高まりを公開して「自信や誇り」に繋がるとともに、下学年は一つ上の学年から自分たちよりも一段階「質の高い学び方」に憧れをもって学ぶ機会としました。このように、4月の進級に向けて目指す姿を確かめたり、一人一人がその心構えをもてるようにしたりする取組も佳境に入ってきました。



6年生は、小学校生活最大で最高の儀式的行事である「卒業証書授与式」の準備・練習をはじめ、奉仕作業を中心とした「巣立ち活動」、在校生への『伝統継承』を意識した「引継ぎ活動」などの「卒業プロジェクト」を進めています。その様子からは、6年間お世話になった学校への「感謝」と巣立ち行く最高学年としての強い「決意」を感じます。この6年生に「安心」して卒業してもらえるように「感謝」を伝えるための「6年生ありがとうの会」が、明日(3/1)行われます。5年生が中心となって行った準備や練習が、実を結ぶことを楽しみにしたいと思います。卒業(進学)・修了(進級)に向け、学校中で「前向きに 直向きに」頑張っているところです。それらの取組や当日の様子は、学校HPでも随時お伝えしていきますので、是非ご閲覧ください。

学校だより

令和5年度 第11号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和6年1月31日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

自然災害への備えと警報発令時の学校の対応

校長 藤田 忠久

石川県で震度7の揺れを観測した能登半島地震の発生から1ヶ月が経とうとしています。能登地方やその周辺を震源とする地震の回数は徐々に減少しているものの、依然として地震活動が活発な状態が続いており、気象庁は引き続き大きな地震に注意するよう呼びかけています。能登半島地震の被災地では厳しい寒さが続いていて、避難生活の長期化で体調を崩す人が相次ぎ「災害関連死」の疑いで亡くなった人も確認されています。この度の能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、被災者の救済と被災地の復興支援のために尽力されている方々に深く敬意を表すとともに、相次ぐ余震と寒さの中で不安が募る状況が続いておられる皆様の安全と一日も早い復興をお祈りしております。

そんな中、1月25日（木）に東日本大震災当時、宮城県石巻市立大川小学校に通っていた6年生の長女を津波で亡くされた石巻市立青葉中学校の平塚真一郎校長先生のお話を、直接聞かせていただく機会を得ました。長良東小学校では、一昨年度から平塚先生をお招きしての「職員研修」と「児童への講演会」を毎年開催しておられ、河井校長先生から3年目となる今年度への参加について、学校運営協議会の青山会長さんとともに声をかけていただいたのです。遺族としての、教師としての両面から「命の問題」を伝えようとする平塚先生の語りに、本当に胸が熱くなりました。26日（金）の「高学年児童への講演会」にも本校教務主任が参観させてもらい、来年度からの「岐阜小学校での講演」もお願いしました。今年度3回目となる予告なしの「命を守る訓練」は2月の実施となりますが、この機会にも「大川小学校の教訓」を少しでも生かしていきたいと思っております。

自然災害への対応としては、1月24日（水）に「大雪警報による臨時休校」措置もありました。今年度初めての「登校前の警報発表」でしたので、多くのご家庭にご迷惑やご心配をおかけしたことと思っております。ここで、改めて「非常時における休業及び登校」についてのご理解とご協力を、お願いしたいと思います。岐阜市では、全ての小中学校で「児童生徒が登校する以前に警報発表または警戒レベル3以上が発令されている場合は、解除されるまで家庭において待機」の対応となり、「学校の臨時休校、開始時刻、時間割等は、学校からのスマート連絡帳、学校HP等で確認」をお願いすることになっています。今回は、AM6:49の警報発表でしたので、急遽「スマート連絡帳」未読の家庭への電話連絡もさせていただきましたが、今後は大雨や大雪等の気象警報の心配がある場合には、ご家庭においても情報収集に努めるとともに「学校からのお知らせ」にも気を配っていただくようお願いいたします。また、今年度の1年生にとっては「オンライン授業」が初めての機会（経験）となったにも関わらず、十分な想定と準備が整っていなかったことで、大変ご迷惑をおかけすることになり申し訳ありませんでした。岐阜市のGIGAスクール構想にある「教室に来ることができない子供たちに対してもオンラインで授業を行って学びを確保」を受け、岐阜小学校では、学級閉鎖や臨時休校の場合にも、できる限り「オンライン授業」で学びを止めずに進められるようにしています。この対応についてもスマート連絡帳や学校HP等で確認していただきますよう、宜しく願いいたします。



学校だより

令和5年度 第10号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和5年12月26日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

今年の漢字、岐阜小学校は「活」！

校長 藤田 忠久

一年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が、税金の「税」に決まりました。日本漢字能力検定協会の「今年の漢字」は、毎年、京都・清水寺で発表されています。12/12に森清範貫主が、大きな和紙に特大の筆を使って「税」という文字を書きました。29回目となる令和5年は、11月以降に日本漢字能力検定協会のwebサイトなどで全国から募集し、約15万票の応募の中で「税」が1位となる約6千票近くを集めました。今年は、生活に直結する増税や減税の動向に注目が集まった他、インボイス制度やふるさと納税といった税にまつわる話題が取りざたされ、国民の期待や不安が錯綜したことなどが理由だということです。「税」が選ばれるのは2014年以来2回目で、当時は消費税率の引き上げや政治とカネの問題によって税金について考えさせられる1年だったということです。

そこで、岐阜小学校の令和5年を表す漢字（一字）を、2年ぶりに考えてみました（一昨年の岐阜小は「為」※学校HPインフォメーション「学校だより」R3後期を参照）。1/1HPにアップした年賀状には「今年こそは心身ともにふれあうことができる従来の『岐阜小スタイル』の復活を願っています」と添えました。そして、5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行により「学校の教育活動において児童・教職員に対してマスク着用を求めないこととなり新型コロナウイルス感染症の流行前の学習や生活に戻す」を基本とし、いろいろな活動や行事がbeforeコロナに近い形へと復活しました。マスクが外れて笑顔が溢れ、語りや歌声の口形も見られるようになり、豊かな表情が復活しました。運動会の「ジェンカ」のような、スキンシップの場も復活しました。また、岐阜小CSでも「サマースクール」での飲食を伴う講座、「ふれあいフェスタ」での大家族でのウォーク、「読み聞かせ」での距離感、…地域の方々との多くのふれあいが復活しました。夏には、屋上から長良川花火大会を観覧する「夢花火プロジェクト」も復活しました。保護者による「校外学習」引率ボランティア、6年生の白川郷学園6年生への「岐阜まちガイド」など、新たな活動を創造することもできました。

12月にも「ふるさと学習」等の発表集会で、5年生、2年生、すすくのみんが、活躍してくれました。校内の様子を見てもらった学校運営協議会委員の皆さんからも「子供たちが明るく活発」「タブレット端末等のICT機器活用が凄い」など、お褒めの言葉をたくさんいただきました。令和5年の岐阜小学校は、子供たちが快活で、活気があり、学校全体の活性化が図ることができたと自負しています。この「活」の字こそが、今年の岐阜小学校を表す漢字だと選定したのでした。改めて「活」の意味を調べてみると「①いきる。いかす。②勢いよく動く。いきいきとしている。③気絶した人の息を吹き返らせる術。転じて元気を失った人に元気をつけること。」とありました。まさに、今年を目指した学校の姿を表していると感じました。

明日（27日）からは、令和5年を締め括って新たな年を迎える「冬休み」が始まります。「〇〇家の年末年始のくらしを味わおう」に向かって、充実した家庭生活をお過ごしください。年明けの後期後半も、活力漲る岐阜小学校として、活動的に令和5年度を締め括っていきたいと思います。



学校だより

令和5年度 第9号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和5年11月30日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

伝統 & 共創の「ふるさと教育」

校長 藤田 忠久

11月には、岐阜小学校では伝統となっている1年生「名和昆虫博物館&岐阜公園見学」「屋上農園のイモ掘り」、2年生「もっとなかよしまちたんけん①②」、3年生「岐阜中警察署・正法寺・妙昭寺での各見学」、4年生「美濃まち見学」「銀杏活動」に加え、今年度は新たに5年生「川原町探究」と「川原町で生きる人々」全校研究授業、6年生「白川郷学園6年生に岐阜まちガイド」…と、それぞれの学年で非日常の直接体験が続き、子供たちにとって大変貴重な“学び”や“成長”の機会が数多くありました。「白川郷との相互交流」としての「岐阜まちガイド」は、本校の「ふるさと共創教育」のゴールとなり得る可能性を感じています。6年間の「ふるさと学習」の集大成が、この活動に凝縮するという見通しがもてれば、1～5年生の学びがいっそう強く繋がっていくように思います。体験談での「ふるさと自慢」と岐阜まちの「おもてなし」を目指して6年間のカリキュラムを考え、学習を展開していくという方向性に目処が立ったことを実感しています。



また、岐阜小コミュニティ・スクールとしても、11日(土)に最大のイベントである「ふれあいフェスタ」を、大家族での「ふるさとウォーク」という形で開催することができました。閉会式でもお話ししたように「大好きなふるさとを、仲間や地域の皆さんとふれあいながら、ウォークする最高のイベントだった」「学校と地域が一体となる『はじまり』に、タブレット端末やQRコード・ARを活用し、凄い作品が出来上がる仕組みという『今』のアイデアが盛り込まれて素晴らしかった」というのが率直な感想です。地域行事部をはじめとする地域や保護者の皆さんに心からの感謝を申し上げます。

さらに、11月中旬に、鳥取県教育委員会「未来を拓くとっとり学力向上プロジェクト」の一環である「未来を支える人材育成事業」(若手教員派遣事業)として、鳥取県米子市立弓ヶ浜小学校の山中卓先生が、岐阜小学校で5日間の研修をされました。相手校や鳥取県教委の許諾や承認が得られれば、全国のどこにでも行ける条件で、本人が岐阜小での研修を希望されたのでした。研修を終えられた山中先生からは『「家庭学習への転換で見えてきたこと」と『タブレット端末をはじめとしたICT機器活用』を研修の目的にして来たのですが、いずれもレベルが高すぎて、そのまま持ち帰ることはできないと感じたのが正直な感想です。しかし、方法論的なことよりも

『児童の成長最優先』『自ら進んで学ぶ力の育成』『教員の使命は子ども一人一人に寄り添うこと』という理念こそが大切だと学びました。自分の学校や鳥取県でできることから始めたいと思います。賢い子供たち、能力の高い先生方、協力的な保護者の皆さん、温かく誇り高き地域の皆さんが受け入れてくださり、『ふるさと教育』の重要性や『コミュニティ・スクール』の魅力も存分に味わうことができました。本当に充実した研修となりました。」と話してくれ、岐阜小学校の特長をしっかりと感じ取ってくれたと嬉しくなりました。



学校だより

令和5年度 第8号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和5年10月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

最善を尽くすことが「最高」・・・胸を張って次へ！

校長 藤田 忠久

天気予報にドギマギしながらも、実際には爽やかな秋晴れが続く中、10月28日（土）に令和5年度「岐阜小運動会」を、無事に開催することができました。

運動会は「児童一人一人が力と自信を付け、学級の凝集力を高め、感動を分かち合える学校」に向けた「体育を素材とした豊かな体験学習の場」と捉え、児童が明るく笑顔で活動することを通して、「自分大好き」「仲間大好き」「学校（ふるさと）大好き」に迫る機会と考えました。「残暑を避ける」「前期間の成績処理の時期には取り組まない」等の理由により、岐阜小学校の「運動会」は10月末の土曜日開催としました。種目は、奇数学年「個人競技」、偶数学年「団体競技」、低・中・高の学年部「団体演技」、全校種目「なかよし班のリレー」、低・高別「選手リレー」に限定し、午前中に「閉会式」「解団式」まで終わるようにしました。また、応援合戦（応援団）はなくし、赤・白の「団リーダー」として、自団の勝利を目指して競技中の応援をリードするだけでなく、取組期間から全校のみんなに積極的に声をかけながら、運動会を成功へと導く役割を課すことにしました。今年度は、こうした形で運動会に取り組む3年目となり、そこに4年ぶりに「すくすく&全員」種目のジェンカも復活させました。この1ヶ月間は、スローガン「みんなで創ろう最高の運動会 ～助け合い・本気で競争～」に向けて、全校、学年部、学年、学級、グループ、個人で、それぞれに全力で取り組んできました。



ところが、10月第4週に入って、いきなり低学年を中心にインフルエンザ（症状）による欠席者が増えました。運動会前日には、低学年では回復傾向が見られて少し安堵したのですが、4年1組でインフルエンザ陽性者4人を含めた欠席者が8人となりました。本来であれば学級閉鎖の措置を執るところですが、運動会予備日に全学級が揃う保証はなく、前日出席者の体調が良好であることを確認して「運動会での学級閉鎖は行わないこと」としました。欠席者多数の中での本番は、練習通りにできない種目や係の仕事がいくつかありました。4年生の団体競技に3年生が助っ人に加わったり、選手リレーに代表ではなかった子が走ったり、全校種目や係の仕事でも多くの子たちがカバーし合ったりして進めることができました。正直なことを言うと「欠席者が多いと分かった段階で『最高の運動会』



にはならないよなあ」と思いかけた自分がありました。しかし、前日の練習や準備を見て、開会式で話したように「最善を尽くすことが『最高』に繋がる」と考え直したのです。全校のみんなで「最高に楽しむ」各学年部の演技、「最高に思いやる」団席や競技中の声かけ、「最高の笑顔でやりきる」全ての競技や係の仕事、どれもが「最高の運動会」へと繋がりました。欠席者の分まで楽しもうと「助け合い」「本気で競争」を実行し、感謝や成就感に浸ることができました。素晴らしい子供たちに心から敬意を表したいと思います。また、ご観覧いただいた保護者をはじめ地域の皆様、温かなご声援を、ありがとうございました。

「運動会の共創」を楽しんだ自信を、11月の学習や生活に生かして欲しいと思います。